

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 27 年 10 月

○ 概要

(1) 平成 27 年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は、6,824 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）9.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,472 円（伸び率 6.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,606 億円（伸び率 4.0%）、薬剤料が 5,207 億円（伸び率 11.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 740 億円（伸び率 16.4%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	6,025 円	2.90 種類	22.3 日	93 円
伸び率（%）	+8.6	▲1.4	+0.9	+9.1

(2) 薬剤料の約 85% を占める内服薬 4,341 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）467 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 954 億円（伸び幅 11 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 289 億円（総額 429 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,341 億円 (467 億円)	21 循環器官用薬 (954 億円)	11 中枢神経系用薬 (692 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (555 億円)
0 歳以上 5 歳未満	49.2 億円 (3.8 億円)	44 アレルギー用薬 (22.2 億円)	61 抗生物質製剤 (12.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (7.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	104.0 億円 (12.1 億円)	44 アレルギー用薬 (47.4 億円)	61 抗生物質製剤 (17.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (15.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,514 億円 (161 億円)	11 中枢神経系用薬 (302 億円)	21 循環器官用薬 (290 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (202 億円)
65 歳以上 75 歳未満	1,113 億円 (134 億円)	21 循環器官用薬 (294 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (166 億円)	62 化学療法剤 (125 億円)
75 歳以上	1,561 億円 (155 億円)	21 循環器官用薬 (368 億円)	11 中枢神経系用薬 (254 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (181 億円)

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,472 円（伸び率 6.2%）で、最も高かったのは京都府（11,607 円（伸び率 8.6%））、最も低かったのは佐賀県（8,426 円（伸び率 10.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率 23.0%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率 2.5%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】740 億円（伸び率：16.4%、伸び幅 104 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	59.7%	+3.3%
薬剤料ベース	14.2%	+0.6%
後発品調剤率	63.2%	+2.0%
（参考）数量ベース（旧指標）	40.3%	+2.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+16.4%	+28.0% (5 歳以上 10 歳未満)	+10.1% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.2%	15.1% (65 歳以上 70 歳未満)	10.1% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬）薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	658 億円 (+93 億円)	21 循環器官用薬 (187 億円)	23 消化器官用薬 (114 億円)	11 中枢神経系用薬 (71 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.8 億円 (+1.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)	44 アレルギー用薬 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	12.7 億円 (+2.6 億円)	44 アレルギー用薬 (5.2 億円)	61 抗生物質製剤 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	218 億円 (+29 億円)	21 循環器官用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (33 億円)	11 中枢神経系用薬 (27 億円)
65 歳以上 75 歳未満	173 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (19 億円)
75 歳以上	248 億円 (+36 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,027 円	1,402 円（岩手県）	841 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+12.7%	+23.3%（愛媛県）	+9.0%（高知県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.7%	72.5%（沖縄県）	50.1%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.2%	18.3%（沖縄県）	10.7%（徳島県）
後発医薬品調剤率	63.2%	74.3%（沖縄県）	56.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	40.3%	52.0%（沖縄県）	34.0%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 27 年 10 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。